

第6学年 国語科学習指導案

日時 平成28年 6月21日(火)第5校時

学級 大和小学校6年 32名

授業者

1 単元名 1 登場人物の心情をとらえ、感想をまとめよう 「カレーライス」

2 単元について

この作品は、中心人物と対人物が明確であり、物語の進行に沿って揺れ動く人物の心情の変化が、一人称「ぼく」を語り手として描かれている。父親と子どもである「ぼく」との関係の変化によって物語が展開され、子ども扱いする父親に腹を立てていた「ぼく」が、風邪をひいた父親のために『中辛』のカレーを作ることによって、少し成長した自分を知らせることができ、すっきりして仲直りできた様子が描かれている。

本学級は、学習に意欲的に取り組むことができ、自分の考えを進んで発表しようとする児童が多い。一方で、叙述を基に登場人物の心情を読み取る力が弱いという実態があり、考えの根拠となる言葉や文を答えることができなかつたり、読み取りの内容とは異なる箇所を考えの根拠としたりする児童が多い。それは、本文中の言葉に着目するのではなく、自分の感覚や生活経験から読み取りを行っていたり、隠喩的な表現を読み取る力が弱かつたりするからではないかと考える。本単元では、物語文の読み取りを通して、本文中の言葉を根拠とし、登場人物の心情の変化を読み取ることができるようにするために、ワークシートを活用する。会話や行動だけでなく「ぼく」の心の中の言葉(内言)などから、「ぼく」の心情を読み取ることのできる箇所を見つけさせていきたい。その時の「ぼく」の気持ちを書き込む活動を繰り返し、描写をとらえて考えをまとめる力が身に付くようにする。

また、終末の場面における「ぼく」の心情についての深めの発問を行うことで、物語の中でキーワードとなる『甘口』『中辛』に込められている意味を考え、題名である『カレーライス』が何を象徴しているのかを考えさせたい。

本単元では、最後に感想を書き交流をする活動を位置付けた。感想を書く際には、自分の経験と重ねて、「ぼく」との共通点や相違点を見つけて書くことができる姿を目指し、各場面で自分の感想をまとめる活動を積み重ねていく。

2 本時の指導にあたって

(1) 言語活動の充実を図る単元指導計画の工夫

単元を貫く言語活動を「登場人物の心情をとらえ、感想をまとめよう」とし、最後に自分の経験を重ねて感想に書くことを意識しながら、各場面での人物相互の関係や心情を読み取り、毎時間ごとの感想を書き溜めていく。考える時間を十分に確保するために、「ぼく」の心情の変化を読み進め、その時間の終わりに感想を書く時間を位置付ける。また、書いた感想を交流し自分の考えを仲間に伝える場を位置付けることで、考えを深めることができるようにした。

(2) 根拠をもとに自分の考えをもつための指導の工夫

登場人物の心情を読み取るために、ワークシートを活用する。『心の中の言葉(内言)』、『会話』、『行動』などに着目させ、「ぼく」の気持ちの変化は、周りの人のどのような言動がきっかけとなっているのかを捉えさせていくことで、心情の変化と周りの人との関わりについて気付くことができるようにする。また、本時の指導においては、自分の力で根拠となる言葉を見つけ出せない児童には、「だめだよ、こんなのじゃ。」という言葉に着目させ、「ぼく」が『甘口のカレー』を「だめだよ」と感じている理由について考えさせる。そして、「ぼく」が「お父さん」に、『辛口』のカレーが食べられるようになったことを伝えたいと思う心情について書くことができるように支援する。

(3) 考えを深め、広めるための交流の場や形態の工夫

物語の終末の場面について、「『ぼくたちの特製カレーは、ぴりっとからくて、でも、ほんのりあまかった。』とぼくが感じているのはなぜだろう」という深めの発問を行う。2つの味の表現に隠された、「ぼく」の心情について読み取ることで、『甘口』や『辛口』に込められた意味について考えさせたい。

また、「ぼく」の心情についての考えをより確かにするために、深めの発問での全体交流の後に、グループ交流を位置付ける。『甘口』や『辛口』についての自分の考えを話したり、相手の意見をもとに自分の考えと比べたりする活動の中で、『カレーの味』に込められた意味についての考えをより確かにしていく。

3 単元指導計画

「登場人物の心情をとらえ、感想をまとめよう」 (全7時間)

<p>【単元の指導目標】</p> <p>登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、自分の考えをまとめることができる。 【読む能力(1)エ】</p> <p>教材文を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 【読む能力(1)オ】</p> <p>自分の感想を表すために、的確な言葉を用いることができる。 【伝国(1)イ(カ)】</p>
--

(1) 単元で身に付けたい力 単元の評価規準

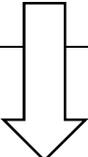
【関】登場人物の相互関係や心情を理解し、自分の経験と重ねて共通点や相違点を探しながら読もうとしている。

【読】登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、自分の感想をまとめている。

友達と感想を交流することにより、自分の考えを広めたり、深めたりしている。

【言】自分の感想を表すことができる言葉を選んで、文章を書いている。

(2) 単元指導計画

次 / 時	ねらい	主な学習活動と学習課題 深めの発問	「読み取りの技」と 着目させたい語句・叙述
1	本文を読んで初発の感想を書く活動を通して、あらすじをつかんだり、学習課題と学習計画を設定したりすることができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 単元全体の目標と活動の流れを確認する。 「カレーライス」の学習計画を立てよう。 2. 「カレーライス」を読み、初発の感想を書く。 3. 感想を交流する。 4. 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 登場人物の心情をとらえ、感想をまとめよう。 5. 学習計画を立てる。 6. 難単語を辞書で調べる。 	 <p>A 心の中の言葉(内言) B 登場人物の会話 C 登場人物の行動</p>
2	「絶対にごめんなさいは言わない。言うもんか、お父さんなんか」「分かっていると言われるのがいちばんいやなんだ」「言いたかったけど、言えなかった」などの「お父さんウィーク」の前日から二日目までの「ぼく」の心の中の言葉(内言) 会話や行動に着目して読み取る活動を通して、「ぼく」がお父さんに謝ることができなかった理由に気づき、「ぼく」の心情の変化をとらえ、感想をまとめることができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の学習課題を確認する。 どうして「ぼく」は、お父さんに謝ることができなかったのかを読み取ろう。 2. 「お父さんウィークの前日から二日目」の部分を読み取る。 3. 心の中の言葉(内言)・会話や行動から「ぼく」の心情を表す言葉を見つけ、心情を読み取る。 4. 読み取ったことをもとに、意見交流をする。 <p>深めの発問</p> <p>「もっと、こう、なんていうか、もっと。」は、どんな気持ちを伝えたかったのだろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. グループ交流をする。 6. 学習の振り返り(感想を書く)をする。 7. 感想を交流し、考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼくは悪くない」(A) ・「絶対にごめんなさいは言わない。言うもんか、お父さんなんか」(A) ・「ぼくはそっぽをむいた」(C) ・「そんな子どもっぽいことじゃなくて、もっと、こう、なんていうか、もっと。」(A) ・「絶対にあやまるもんか、と心に決めた」(A) ・「返事なんか、しないけど」(A) ・「分かっていると言われるのがいちばんいやなんだ」(A) ・「お父さんは分かってない」(A) ・「休まずに食べ続ける」(C) ・「自分でもこまってる」(A)

			・「言いたかったけど、言えなかった」(A)
3	「うれしくて、でもやっぱり楽しくて、そうはいつてもうれしくて」「なんだかこっちまでうれしくなってきた」「いつもよりちょっと楽しく過ごせそうだ」などの「お父さんウィーク」の三日目の「ぼく」の心の中の言葉(内言) 会話や行動に着目して読み取る活動を通して、「ぼく」が、お父さんに大人だと認められ、仲直りできたことを嬉しく感じていたことに気づき、「ぼく」の心情の変化をとらえ、感想をまとめることができる。	<p>1. 本時の学習課題を確認する。</p> <p>「ぼく」はどんな気持ちで、お父さんとカレーを作っていたのかを読み取ろう。</p> <p>2. 「お父さんウィークの三日目」の部分を読み取る。</p> <p>3. 心の中の言葉(内言)・会話や行動から「ぼく」の心情を表す言葉を見つけ、心情を読み取る。</p> <p>4. 読み取ったことをもとに、意見交流をする。</p> <p>深めの発問</p> <p>「ぼく」が「なんだかこっちまでうれしくなってきた」のは、なぜだろう。</p> <p>5. グループ交流をする。</p> <p>6. 学習の振り返り(感想を書く)をする。</p> <p>7. 感想を交流し、考えを深める。</p>	<p>・「うれしくて、でもやっぱり楽しくて、そうはいつてもうれしくて」(A)</p> <p>・「でも、カレーなの。いいからカレーなの。絶対にカレーなの」(B)</p> <p>・「子どもみたいに大きな声で言い張った」(C)</p> <p>・「なんだかこっちまでうれしくなってきた」(A)</p> <p>・「いつもよりちょっと楽しく過ごせそうだ」(A)</p> <p>・「口を大きく開けてカレーをほお張った」(C)</p>
4	「お父さん」の視点に立って、登場人物の気持ちを読み取る活動を通して、子どもだと思っていた「ぼく」が、中辛のカレーを食べることができるくらい大人であったことをお父さんが嬉しく感じていたことに気づき、感想をまとめることができる。	<p>1. 本時の学習課題を確認する。</p> <p>「お父さん」は、「ぼく」のことを、どう思っていたのかを読み取ろう。</p> <p>2. 「お父さん」の心の中の言葉(内言) 会話や行動から、「お父さん」の人柄やものの見方について読み取りを行う。</p> <p>3. 読み取ったことをもとに、意見交流をする。</p> <p>深めの発問</p> <p>「いや、でも。」の後に、お父さんはどんなことを「ぼく」に伝えたかったのだろう。</p> <p>4. グループ交流をする。</p> <p>5. 学習の振り返り(感想を書く)をする。</p> <p>6. 感想を交流し、考えを深める。</p>	<p>・「ごきげんな顔で大盛りのカレーをばくつく」(C)</p> <p>・「まだおこってるのか」(B)</p> <p>・「この前、いきなりコードぬいちゃって、悪かったなあ」(B)</p> <p>・「お父さんは、きょんととしていた」(C)</p> <p>・「いや、でも。」(B)</p> <p>・「戸だなから取り出したのは甘口」(C)</p> <p>・「だって、ひろし、それ『中辛』だぞ。からいんだぞ、口の中ひいひいしちゃうぞ。」(B)</p>
5 本 時	「だめだよ、こんなのじゃ。」「ひろしももう『中辛』だったんだなあ」「ぼくたちの特製カレーは、ぴりっとからくて、でも、ほんのりあまかった。」などの叙述に着目して読み取る活動を通して、『甘口』『中辛』に込められた意味や、二人で食べたカレーの味が「ぼく」の心情を表現していることに気づき、感想をまとめることができる。	<p>1. 本時の学習課題を確認する。</p> <p>どうして「ぼく」は、中辛カレーにこだわっていたのかを読み取ろう。</p> <p>2. 本文中から「カレーの味」や「カレーに対するぼく」の気持ち」を表す言葉を見つけ、心情を読み取る。</p> <p>3. 読み取ったことをもとに、意見交流をする。</p> <p>深めの発問</p> <p>「ぼくたちの特製カレーは、ぴりっとからくて、でも、ほんのりあまかった」と「ぼく」が感じているのは、なぜだろう。</p> <p>4. グループ交流をする。</p> <p>5. 学習の振り返り(感想を書く)をする。</p> <p>6. 感想を交流し、考えを深める。</p>	<p>・「カレーのルウが、あまったらくてしかたない」(A)</p> <p>・「特製カレーだって、三年生どころまでは、すごくおいしかったのに」(A)</p> <p>・「特製カレーのあまったらさは変わらない」(A)</p> <p>・「甘口。お子さま向けの、うんとあまいやつ。」(A)</p> <p>「だめだよ、こんなのじゃ。」(B)</p> <p>・「ひろしももう『中辛』だったんだなあ」(B)</p>

			・「ぼくたちの特製カレーは、びっくりとからくて、でも、ほんのりあまかった。」(A)
 6	「カレーライス」の学習を通して、自分が考えたことなどについて、「ぼくの視点」「カレーの味が表す意味」「お父さんの視点」を中心として、自分と重ね合わせた感想を書くことができる。	1. 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">構成を考えて、自分の経験とつながりを見つけ、感想を書こう。</div> 2. 感想をまとめる時の構成を学ぶ。 3. これまでの感想から中心となることを選び、感想をまとめる。 4. 自分と重ね合わせた感想を書く。 5. 学習を振り返る。	
7	自分の体験を重ねて書いた感想を、分かりやすく伝えるように話す活動を通して、お互いの考え方の違いに気付き、考えを深めることができる。	1. 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">仲間と感想を交流して、考えを深めよう。</div> 2. 感想を読み返したり、仲間に伝える練習をする。 3. 感想を交流し、自分とは違う感想にふれたり、同じ考えについて考えを深めたりする。 4. 学習を振り返る。	

(3) 単元を貫く言語活動

単元の課題「登場人物の心情をとらえ、感想をまとめよう」

目的意識自分の体験とのつながりを考えた感想を伝えるために

相手意識クラスの仲間に

場面・状況意識 ...感想交流の場面で

方法意識自分の感想が分かりやすく伝えるように話す

評価意識自分の考えが伝わったか

4 本時のねらい

「だめだよ、こんなのじゃ。」「ひろしももう『中辛』だったんだなあ」「ぼくたちの特製カレーは、ぴりっとからくて、でも、ほんのりあまかった。」などの叙述に着目して読み取る活動を通して、『甘口』『中辛』に込められた意味や、二人で食べたカレーの味が「ぼく」の心情を表現していることに気付き、感想をまとめることができる。

5 本時の展開

	学習活動と児童の姿	願う児童の姿を具現するための指導・援助
		ア：根拠をもとに自分の考えをもつための指導の工夫 イ：考えを深め、広めるための交流活動の工夫

つかむ
/
考える
/
深める
/
まとめ

1 前時までの振り返りをする。

- ・けんかしていたお父さんと仲直りすることができて、「ぼく」は嬉しい気持ちになっていたな。
- ・お父さんは「ぼく」のことを子どもだと思っていたけど、『中辛のカレー』が食べられるくらい、大人になっていることを嬉しく思っていたな。

2 本時の課題を確認する。

どうして「ぼく」は、中辛カレーにこだわっていたのかを読み取ろう。

3 本文中から「カレーの味」や「カレーに対するぼくの気持ち」を表す言葉を見つけ、心情を読み取る。

- ・カレーのルウが、あまったるくてしかたない...『甘口のカレー』は、あまったるくて、「ぼく」は好きじゃない。
- ・特製カレーのあまったるさは変わらない...『甘口のカレー』は、次の日もあまったるい。「ぼく」は、そんなに子どもじゃないのに。
- ・甘口。お子さま向けの、うんとあまいやつ...お父さんは、「ぼく」のことを、まだ子どもだと思っている。
- ・だめだよ、こんなのじゃ...「ぼく」はお父さんが思っているより大人なんだから、『甘口』じゃなくて、『中辛』がいい。
- ・ひろしももう『中辛』だったんだなあ...お父さんが知らない間に、ひろしは大人になっていたんだなあ。【お父さんの心情】

4 読み取ったことをもとに、意見交流をする。

- ・『甘口カレー』を「ぼく」はあまり好きじゃない。「ぼく」は、お父さんに『中辛のカレー』が食べられるくらい、大人になったことを知ってほしかったと思う。
- ・『中辛のカレー』を作ることで、「ぼく」は、お父さんに大人になったことを知ってほしかったと思う。

5 深めの発問

「ぼくたちの特製カレーは、ぴりっとからくて、でもほんのりあまかった」と「ぼく」が感じているのは、なぜだろう。

- ・「ぴりっとからくて」は、お父さんが「ぼく」のことを少し大人として認めてくれたことを表している。
- ・「ほんのりあまかった」は、お父さんに認められた「ぼく」の嬉しさを表している。
- ・「辛さ」は大人を表して、「甘さ」は子どもを表している。
- ・本文中に出てくる他のカレーの味も、それぞれ「甘口」は「子ども」、「中辛」は「大人」を表している。だから「ぼく」は「中辛」のカレーを作ったかったと思う。

6 グループ交流をする。

7 自分と重ねて考えた感想を書く。

ねらいを達成した具体的な児童の姿

・「ぼく」が『中辛のカレー』にこだわっていたのは、「お父さん」に『中辛のカレー』が食べられるくらい、子どもではなくなったことを分かってほしかったからだと思いました。『甘口のカレー』は、「ぼく」にとっては「子ども」を、『中辛のカレー』は「大人」を表していて、おもしろいなと感じました。私もひろしと同じように、親から大人として思われると嬉しい気持ちになるので、同じだなと思いました。

8 感想を交流し、考えを深める。

ア 本時の授業の課題につなぐために、前時のワークシートを見返すなど、前時まで読み取った「ぼく」の気持ちについて振り返るように促す。

ア 一人読みでは読み取りの技を活用し、「ぼく」の『心の中の言葉（内言）』、『会話』、『行動』には、「ぼく」の心情が表れていることを助言し、自分の考えの根拠となる箇所に線を引くように指示する。

ア 自分の力で考えの根拠となる言葉を見つけ出せない児童には、「だめだよ、こんなのじゃ。」という言葉に着目させる。そして、「ぼく」が「お父さん」に、『辛口』のカレーが食べられるようになったことを伝えたいと思う心情について書くことができるように支援していく。

ア 「ぼく」の心情を、根拠を明らかにして的確に読み取ることができる児童には、お父さんの「ひろしももう『中辛』だったんだなあ」という言葉に着目させ、カレーの味の表現から分かることについて記述できるようにする。

イ 深めの発問で全体交流をした後、グループ交流の時間を確保し、自分の考えを話したり、相手の意見をもとに自分の考えと比べたりする活動を取り入れ、『カレーの味』についての考えをより確かにする。

評価規準【読む能力】

「ひろしももう『中辛』だったんだなあ」「ぼくたちの特製カレーは、ぴりっとからくて、でも、ほんのりあまかった。」などの、カレーの味に着目して読み取る活動を通して、『甘口のカレー』は「子ども」を、『中辛のカレー』は「大人」を象徴していることや、二人で食べたカレーの味が「ぼく」の心情を表現していることに気付き、感想をまとめることができている。

（ワークシート・発言）

登場人物の会話や行動、情景描写などの文章表現に基づき、その心情を理解することができる。（認識力）